

(その他の指標データ)
 入試形態別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合【大学基礎データ】
 地域別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合
 科目等履修者の入学者数
 聴講生の入学者数

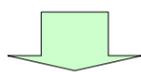
★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 5.0.1	キャンパス自立支援室との協同により、障がい学生受け入れを着実にやっている。
小項目 5.0.2	入学定員に対する入学者比率はほぼ1.05と安定している。
★ 小項目 5.0.3	近年収容定員を超えて増加傾向にあった在籍学生数を減少させた。
小項目 5.0.4	「定着率検討委員会」、「入試制度検討小委員会」、「進路情報意見交換会」において、学生募集、入学者選抜の検証改善を着実にやってきた。
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

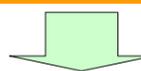
小項目 5.0.1	キャンパス自立支援室との連携のもとに、障がい学生が学びやすいキャンパスや支援体制をさらに充実させる。
小項目 5.0.2	一般入試と各種入学試験の毎年の検証を行うことで、全体の改善を図る。
★ 小項目 5.0.3	入学定員に近い合格者数を確保できるよう判定方法の改善を図り、残留学生の支援を充実させる。
小項目 5.0.4	今後も現在の検証を着実に継続し、データを蓄積してゆくことで改善を行う。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 5.0.1	各学科のアドミッションポリシーが明示されていない。また、各種入試のアドミッションポリシーの広報も不十分である。
小項目 5.0.2	最近の受験生の関心に対応する学生募集活動が不十分な可能性がある。
★ 小項目 5.0.3	収容定員に対する在籍学生数比率は安定しているが、入学者数はここ数年増減を繰り返している。
小項目 5.0.4	定期的な検証を行うことについて、学部での全体的な意識が低い。
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 5.0.1	各学科のアドミッションポリシーを大学ホームページ、広報誌などで明示する。また、各種入試のアドミッションポリシーの広報を進める。
小項目 5.0.2	2012年度入試において、入学者選抜方法をさらに改善することにより、この2年間続けて減少した志願者数を可能な限り従前レベル程度に回復させる。
★ 小項目 5.0.3	入学者数をできる限り入学定員に近づける努力を継続するとともに、残留学生への支援をさらに充実することにより在籍学生数を一層適正化する。
小項目 5.0.4	受験者の定着率検討方法の改善、現行の入試方法の不断の再検討により、時代の変化に即した選抜制度を整備すると共に、検証について学部全体の意識を高める。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○志願者倍率はやや低下傾向、収容定員に対する在籍学生数比率は110%前後で安定しており、一般入試入学者比率は最近2年間は6割弱の水準となっています。

○各学科のアドミッション・ポリシーの開示、入試方法の定期的な検証に対する学部内の意識の低さなどの課題への適切な対処が期待されます。

【学内委員】

○障がい学生の受け入れが着実に進んでいること、定員管理が適切に行われていることは評価できます。「改善すべき事項」にも記述されていますが、入試方法の不断の再検討と最適化はぜひやっていただきたいことです。

○各学科のアドミッションポリシーが明示されていない。また、各種入試のアドミッションポリシーの広報も不十分であるとの認識です。これらを認識され、アドミッションポリシーを受験生、在学生に周知する必要があります。

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことのわかる必要があります。そのためにも、小項目5.0.1については参照ではなく方針の内容を記載してください。なお、認証評価の際には方針の内容を明らかにすることが求められています。また、小項目5.0.2、5.0.3についてはもう少し説明が欲しいところです。

○アドミッション・ポリシーの入試要項への記載について触れていただければと思います。

○問題点や課題を明確に示されています。改善に向けた努力と実現に期待します。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・アドミッション・ポリシーを広く知らしめ、多様な方法によってさまざまな学生を受け入れることはきわめて重要です。ただし、受け入れる学生の質を高めるためには、受け入れた学生の品質管理が不可欠です。

・学科が多いので、アドミッションポリシーは明確にする必要があります。また、学部全体だけでなく、各学科のアドミッションポリシーに近いものの作成が求められます。

・編入学試験において募集人員を「若干名」としている場合、定員充足しているにも関わらず多くの学生を受け入れている場合は助言の対象となる可能性がありますので注意してください。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目5.0.1

基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」

○小項目5.0.2

基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保証し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

《実験・実習を伴う分野(心理学、社会福祉学に関する分野を含む)》

1.20以上：努力課題

1.25以上：改善勧告

《医学・歯学》

1.00以上：努力課題

1.05以上：改善勧告

《上記以外の分野》

1.25以上：努力課題

1.30以上：改善勧告

《未完成学部》

いわゆる「届出設置」の場合は、前身となる学科等の状況を勘案するなど、条件に応じて判断する。

※【定員未充足の場合の提言指針】

《全て》

0.9未満：努力課題

0.8未満：改善勧告

《未完成学部》

定員超過の場合の提言指針に準じる。

「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる

（なお、定員の超過が留年者数の増加によるものである場合は、その事情を考慮する）

※【定員未充足の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる。

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

1.30以上：努力課題

《未完成学部》

1.30以上：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

※【定員未充足の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

0.7未満：努力課題

《未完成学部》

0.7未満：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のこと

- ・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性
- ・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《現状の説明》について以下のとおり記述を差し替える。

小項目5.0.1

（受け入れ方針）

文学部は、建学の精神に則ったキリスト教主義教育を土台とする人文学の修得を通じて、全人的陶冶を行うことを教育理念としています。多様な人文学の教育・研究のために、本文学部は文化歴史学科、総合心理科学科、文学言語学科の3学科で構成され、さらに11の専修に区分されますが、どの専修に所属しても学生それぞれの関心に従って基礎的な科目群から専門的な科目群まで幅広く履修できるよう柔軟なカリキュラムを組んでいます。また最終的な到達目標として卒業論文の作成が必修とされます。4年間の勉学を通して、主体的に学び、自ら問題を見出し追究していく姿勢が重要です。高等学校の学習においても、基本的な科目全般にわたって基礎学力を充実させるとともに、

★幅広く客観的な観察眼と粘り強く柔軟な思考力を養っておくことが求められます。一般入学試験によって、このような総合的な知的基盤を備えた学生を受け入れることを基本方針としています。

（説明）入試要項にも文学部のアドミッションポリシーは掲載されていない。

小項目5.0.2

（説明）多様な入試形態を設定し、また一般入試で複数の受験機会を与えることで、受け入れ方針に合致するような学生を受け入れるよう努めている。

小項目5.0.3

（説明）また、入学定員に対する入学者数比率は、2011年度現在1.05である。共に目標である1.0に近づけるよう一層の努力が必要である。